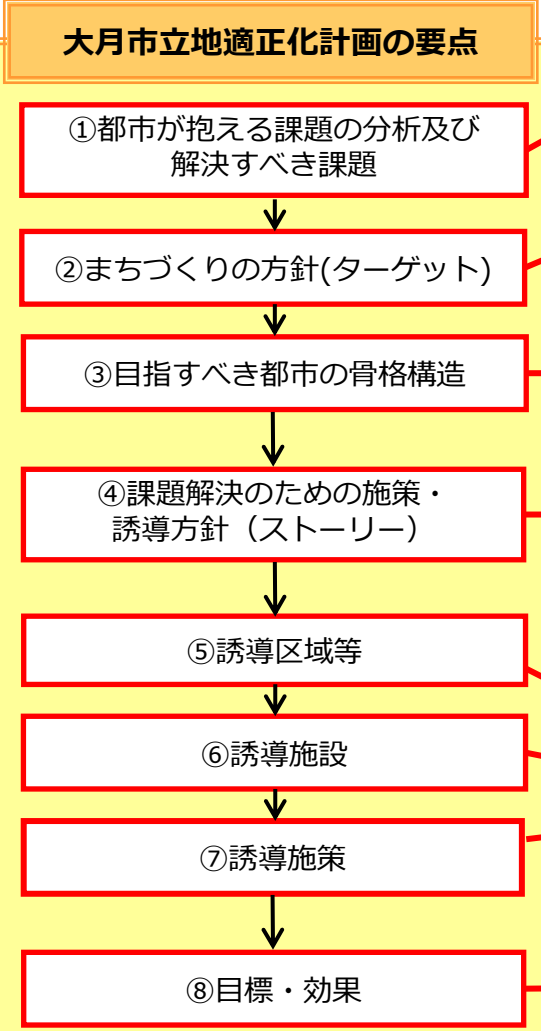


大月市立地適正化計画 「課題～ターゲット～施策～目標・効果」

基礎データ

○作成年度:【都市機能誘導区域】平成29年	【居住誘導区域】平成29年		
○人口:25,419人	【都市計画区域内】19,099人	【用途地域内】8,029人	【白地地域内】11,070人 ※人口はH27
○面積:280.25km ²	【都市計画区域内】5,108.9ha	【用途地域内】351.5ha	【白地地域内】4,757.4ha
○人口密度:90.7人/km ²	【都市計画区域内】3.7人/ha	【用途地域内】22.8人/ha	【白地地域内】2.3人/ha



人口構成の変化や人口密度のさらなる低下に対応した都市構造への移行が必要

市街地人口の減少に歯止めをかけるための適切な市街地の再生・再構築が必要

ターゲット層: 若者・子育て世代
進むべき方向: 人口減少への歯止めと地域活力(賑わい等)の向上

1. 急激な人口減少に歯止めをかけ、都市の活力を維持・回復(都市的人口密度の維持)
2. 超高齢化社会に対応可能な介護・福祉系機能の充実
3. 歩いて暮らせる日常生活圏の形成
4. 賑わいと歴史を日常的に感じる生活

施策①(拠点地区整備)
 大規模未利用地(企業跡地)や空き家・空き店舗をまちなか居住や都市機能誘導の起爆剤として活用(大月駅周辺及び猿橋駅周辺)
 ※別添参照

施策②(公共交通ネットワーク)
 ○現状バスサービスの維持&将来的な循環ルート導入
 ・大月駅のトランジット客を市内観光(名勝「猿橋」等)に誘導
 ・大月駅及び猿橋駅周辺を結ぶ交通ネットワークを強化し、生活・観光の両面におけるアクセス利便性を向上

大月駅周辺及び猿橋駅周辺の誘導区域等設定 ※別添参照

目標	<p>居住誘導区域内の人口密度 約30人/ha (H52) を堅持</p> <p>【参考】大月駅周辺地区人口密度 31.6人/ha (H27)</p>
効果	<p>駅周辺歩行者の増加により、まちの活気を取り戻す</p> <p>○大月駅南北間歩行者を2.5倍に増加 (H30.3: 514人/12h ⇒ H53.3: 1,330人/12h)</p>

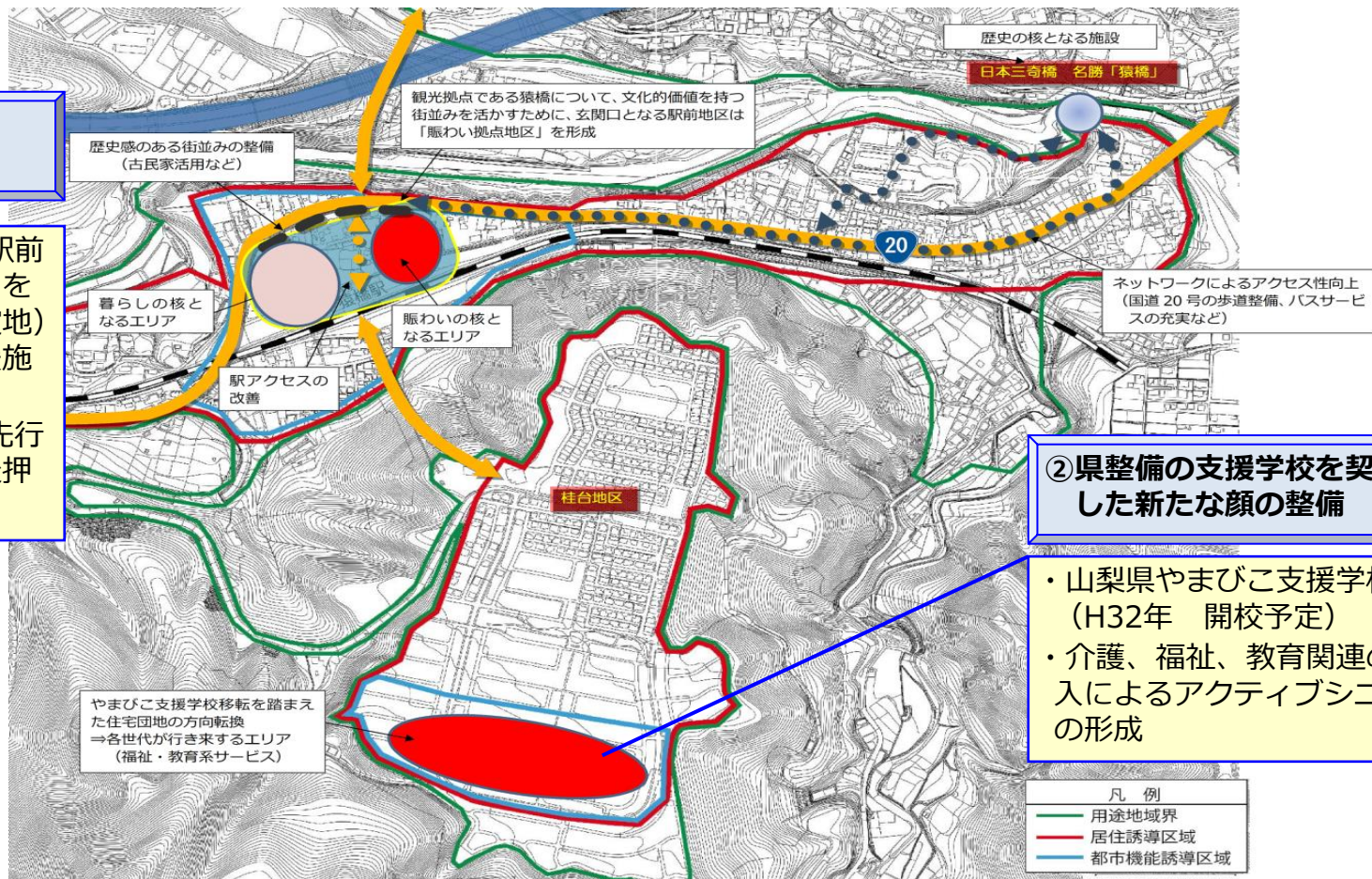
大月市立地適正化計画

猿橋駅周辺

市内第2の拠点に相応しい**歴史・文化が彩る賑わいのある玄関口に再生**
— 名勝猿橋へ、また、多くの市民が住む桂台地区の玄関口にととして —

①大月市が主導する土地区画 整理事業の推進

- ・ 駅アクセス道路を改善し、駅前広場と一体となった駅前空間を整備し、工場敷地（整備予定地）への賑わい施設や子育て支援施設等の機能を導入
- ・ 公共施行（道路、駅広）を先行させ、まちづくりの実現を後押し



②県整備の支援学校を契機とした新たな顔の整備

- ・ 山梨県やまびこ支援学校の移転（H32年 開校予定）
- ・ 介護、福祉、教育関連の施設導入によるアクティブシニア地区の形成

民間活力を活用しつつ、市内第2の新たな「**おおつきの顔**」の創造